

9/17
木曜

戦争法案廃案必す 若者たちのスピーチ

戦争法案の廃案を訴える若者たちのスピーチが共感を広げています。3人のスピーチ要旨を紹介します。

黙ってこることをやめた

私は、安保法制を自衛隊が提出したと知ったとき、不安な気持ちでいっぱいになりました。それは以前に、自衛隊の改憲草案を読んでいたからです。

しーこぶ。
専門学校生 塩見 博子さん(22)



この安保法制を知れば知るほど欠陥が見えてきますが、私は集団的自衛権の行使がなくても、正当化できるとは思いません。

いま止めるしかありません。集団的自衛権では、誰のことも守れません。安保法制では、誰のことも守れません。

反対の民意大きくなる

私は、政治家という職業がとてつもないものだと考えています。職業がとてつもないものだと考えています。

シールズ関西
大学2年生 齊藤 凜さん(19)



無視して権力を乱用する場面ばかりが映し出され、こんな私の政治が閣議決定されたとき、秘密保護法が強行採決されたとき、私はただ絶望しているだけでした。でも今は、いろんな意思表示の方法が分かります。私は黙っているのはやめました。これからは、何度でも声をあげます。

（13日、大阪市の関西大行動で）「スピーチも、同じように声をあげた人たちがたくさんいたからだと思います。」

私は声を上げ続けます

安倍首相は安保関連法案を、国民の平和と安全を守る法案だといいますが、しかし世論調査では、国民の8割は説明不足、過半数が反対意見を示しています。

ティーンズソウル
高校2年生 あいねさん



私は、まだ法案は成立していないという事実と、国会議員の方の良心への期待をどうしても手放すことができません。またできることとはたくさんあります。絶対にはやめません。西大行動で、

（13日、大阪市の関西大行動で）私たちがまだ十数年しか生きていません。あと70年近く、日本で生きていんです。今もそうですが、未来のことを考えると、この法案は恐怖しかありません。私たちは国民の意思を無視する首相に、この国の未来など任せられません。

（11日、SEALDsの国会正門前行動で。ティーンズソウルは戦争法案に反対する高校生グループ）